信州つばさプロジェクト留学報告書

「ＳＤＧｓ探究コースⅡ」（カンボジア）

信州つばさプロジェクト

「SDGs 探究コースⅡ（カンボジア）」

カンボジアでのフィールドワークを通して、戦争や内戦が文化・教育に与えた影響について学び、2030 年の社会の方向性を考える SDGs の要素について理解を深めるとともに、参加した高校生一人ひとりが、持続可能な社会をつくるための各自のアクションプランをイメージできるようになることを目的とする。

・期　日：令和６年３月６日（水）～12 日（火）
・人　員：生徒 28 名、引率２名
・日程表

日次	期日	地名	時刻	日程
1	３/６ （水）	成田　発 プノンペン　着	朝 夕方	○成田空港集合 搭乗・出国手続き、空路にてプノンペンへ ○プノンペン空港到着、ホテルへ
2	３/７ （木）	プノンペン滞在	午前 午後	○カンダール州視察：小学校訪問・家庭訪問・市場見学 ○JICA カンボジア事務所訪問 ○FIDR カンボジア事務所長講話
3	３/８ （金）	プノンペン滞在	午前 午後	○トゥールスレン虐殺博物館見学 ○Buddhist Institue にて講話 ○PSE 生徒との交流
4	３/９ （土）	プノンペン滞在	終日	○団体企業訪問 ○PSE にて研修振り返り・グループ間共有・文化体験
5	３/10 （日）	プノンペン滞在	午前 午後	○団体企業訪問 ○PSE にて研修のまとめ・発表会・懇親会
6	３/11 （月）	プノンペン滞在 プノンペン　発	午前 午後	○プログラム全体の振り返り ○プノンペン市内視察：王宮、カンボジア日本友好橋など ○空港へ移動、プノンペン発
7	３/12 （火）	成田　着	朝	○成田空港着、解散

※FIDR（ファイダー）：公益財団法人国際開発救援財団
※PSE（Pour un Sourire d'Enfant（子どもの笑顔のために））：カンボジアの貧しい子どもたちなどの自立を支援する NPO 団体
◆事前学習：令和５年９月 16 日、12 月 10 日、令和６年１月 20 日、３月３日

長野吉田高校
２年
山﨑（やまざき）　瑞希（みずき）

想像の域から、事実を“知る”へ

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

プログラムに参加する前は、海外、SDGs に興味はあるけれど深くは考えたことはなく、自分の将来像も曖昧なままで、少しずつ焦りを感じていました。私はこのプロジェクトを経て、SDGs に対してもっと行動を起こせる人になりたいと思いました。カンボジアのマーケットで売られていた生肉や生魚に群がる虫、道路脇に大量に落ちていたゴミ等。日本にある当たり前が、当たり前でない事を真正面から感じ、食の安全や、住む人々の健康状態などに危機感を覚えました。今現在、自分は具体的なアクティブや理想を持っているわけではありませんが、参加前ほど漠然とした思考ではなく、クリアな視界になりました。これからたくさんの世界や人と出会って、自分のやりたい活動を見つけていきたいです。

2 カンボジアに対する理解や印象について

今回拠点としたのが首都のプノンペンであったこともあり、カンボジアの発展度に驚きました。以前から、カンボジアは「みんなが思ってるよりも発展しているよ」と聞いてはいましたが想像以上でした。反面、地方のカンダール州では建物や道路、マーケット等で首都との落差に衝撃を受けました。建物や道路の整備、特にマーケットでの衛生管理など途上国に見られる課題や、食事の栄養課題にどのように対処すれば最善なのか考えなければならないことを実感しました。路上に落ちていたゴミについては、首都、地方関係なくかなりの量が見られたので、早急に、持続してゴミを管理、処理できる方法を探す必要があると思いました。

3 PSE 生徒との交流、小学校訪問等から学んだこと

小学校訪問では、二部制を目の当たりにして、教員の不足や施設の不十分さを感じましたが、そこで見た環境を日本のような施設や教員体制にすることが本当にそこで日々を送る人たちにとって幸せなのか、という疑問も持ちました。今の状態では最低限の教育を子どもたち全員が受けるのは難しいため、どのような支援、協力をすれば日本のシステムを押し付けず、最適であるかを自分なりに答えを見つけたいと思いました。PSE 生徒との交流では、目が合うだけではにかんでくれたり、話しかけてくれたりと温かい人柄に触れました。挨拶の仕方やダンスの踊り方など文化体験から愛国心を強く感じました。自分自身ももっと日本の文化について詳しくなり、誇りを持って紹介できるようになりたいと思いました。

4 今の目標や今後の進路について

今の目標は、英語をもっと流暢に話せるようになることです。PSE 生徒と会話をしたときに、言いたいことが表現できなくてとても悔しく、もどかしい思いをしました。カンボジアでは日本より英語が日常に溢れていました。それを見習い、英語と常に触れ、コミュニケーションのツールとして使いこなせるようにしていきたいです。進路については国際系の大学へ行き、英語力を高めてたくさんの人や新しい世界と出会い、自分のやりたいこと、自分がやるべきことを見つけたいです。様々な価値観を持つ人と関わることで、自分の価値観や考え方を広げ、必要とされる人になりたいです。

5 帰国後の活動

高校で信州つばさプロジェクトのカンボジア研修についての発表の機会をいただければ、ぜひ今回の活動を多くの人に聞いてもらいたいと思います。特に、発展途上国の現状について知ってもらい、貧困や教育などについてもっと関心を高めてもらいたいです。その発表によって、少しでも興味をもってもらえるきっかけを作りたいです。また、文章を書いて、なにか形として残る情報を通して、この経験を広めたいです。

道端に放棄されるゴミ

マーケット・肉の露店

長野吉田高校
２年
平田（ひらた）　莉子（りこ）

海外への想いをさらに強めてくれた留学

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

初めての海外だったので、どんなことを経験できるのか期待する気持ちはもちろんありましたが、参加前は現地の方たちと上手く会話できるのかなど不安も大きかったです。しかし、実際カンボジアに行って現地の小学生や高校生と交流してみて、英語がすごく喋れるわけではなくても気持ちは伝わることがわかりました。そこから、大切なのは敬意を持って話したりよく聞いたりすることだと学びました。帰国後は、同じ言語を使う家族や友達などとも、「同じ言語」だからということで相手に敬意を持って話す、聞くということを疎かにせず、「会話ができる」というあたりまえのことを大切にしたいと思うようになりました。また、現地の方と会話ができたといってもスラスラと会話ができるレベルではないのでもっと英語を勉強したいと強く思うようになりました。

2 カンボジアに対する理解や印象について

カンボジアを自分で調べている段階では、カンボジアは貧困というイメージでした。しかし、私達が今回宿泊させていただいたホテルの近辺は高いビルが多く立っている都会で本当にカンボジアなのかすぐに実感が湧きませんでした。一方で、地方の農村部に行ったときには高いビルなどはなくなり都会との格差が目に見えました。だから農村部に暮らす方々はきっと生活に困ることがあるんだろうと思い、家庭訪問の際に生活する上でなにか困ることはあるか質問しました。しかし、生活に困ることは特にないというお答えでした。このことから、カンボジアは思っているよりも発展していることがわかりました。しかし、現地でカンボジアについてお話を聞いたときに、カンボジアでは都市部でも格差が激しく貧困で家がないような人が大勢いることがわかりました。現地に行っても自分の目で見ることができない貧困に苦しんでいる方がいることをさらに実感して、生活に困っていないと聞いて喜ぶだけでなく、目に見えていない人たちにも目を向けたいと思いました。

3 PSE 生徒との交流、小学校訪問等から学んだこと

現地の小学生や高校生はみんな明るく温かい人たちばかりでした。特に３日間一緒に過ごした現地の高校生からは学ぶことが多かったです。一番印象的なのはみんなの優しさと思いやりです。どの生徒もすごく丁寧な気遣いをしてくれました。私が英語をうまく聞き取れないときは言葉を言い換えてくれたり、料理が辛いと言っていたら飲み物を持ってきてくれたり、水筒の水を飲んでいいよと言ってくれたりしました。自分が同じ立場だったら、気を遣って行動をしてもここまでできるかなと何度も考えさせられました。そこから、どんな人にも本当に些細なところまで見て思いやる気持ちの大切さを学びました。

また、主体的にコミュニケーションを取ることの大切さも学びました。私のグループにすこしシャイな子がいて最初は話しかけてもあまり会話が続かなかったりしましたが、何度も笑いかけたり、少しでも話そうとすることでカンボジアのダンスを教えてくれたり、美味しい食べ物を教えてくれたりなどとても仲良くなれました。会話が続かなかったりするとコミュニケーションをとるのが少し怖くなる気持ちもありますが、上手く伝わったり、仲良くなれたりする喜びのほうが圧倒的に大きかったです。今後も、たとえ最初は上手くいかなくても積極的にコミュニケーションをとるようにしたいです。また、企業訪問や現地で活躍する日本人の方からは、自分がやりたいことに挑戦する大切さを学びました。自分は将来的に国際協力をしたいとは思っているけどなにをしたらいいのか分からない状態でした。でも、分からないではなく自分にできることを小さなことでもたくさん考えて実行していきたいと思うようになりました。

4 今の目標や今後の進路について

カンボジアに行く前から私は将来、世界の貧困問題を解決するために、国際協力がしたいと思っていました。今回、カンボジアに行ったことでその気持ちがより強くなりました。今後の進路としては、国際教養、国際理解などの学部がある大学に進学して貧困について国内外関係なく学びたいと考えています。その後は国際協力ができるところに就職したいですがどこに就職するかは大学に入学して様々なことを経験し、考える中で決めていきたいです。そのために、今はまず英語を完璧にしたいです。どの国の人と関わるにしても英語は必須であることが今回の留学によって身にしみて感じたし、英語でしっかり会話をしている先生方が単純にかっこよくて将来は自分もこのような姿になりたいと思いました。この思いを途切れさせることなく英語の勉強を頑張りたいです。

5 帰国後の活動

学校で発表する機会を作っていただき、同学年の人たちや後輩、先生方にも今回の留学で学んだことや感じたことを伝えられるようにしたいです。そこで、カンボジアについてや海外の人とコミュニケーションを取ることの大切さや楽しさを伝えて、一人でも多くの人が海外や国際協力に興味を持ってもらえるようなプレゼンテーションを行うことが出来たらいいなと思っています。

都市部の様子

農村部の様子

長野高校
1年
磯部（いそべ）　小春（こはる）

将来の可能性が広がった研修

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

今回の研修で感じた自分の変化は沢山あります。一つは、人前で発言することを恐れず、自分から積極的に話すのが重要だということです。企業訪問グループで一緒になったカンボジアの高校生が、人前で発表する時に堂々と自分の考えを伝えているのを見て、私も原稿通りではなく、自然と自信を持ってできるように磨いていきたいです。

二つ目は世界の広さを実感できたことです。今まではニュースやインターネットでしか知ることができなかった世界に直接触れることができて、自分の枠が大きく広がった気がしました。同時に日本国内に留まらずに他の国に自分で行ってみることで、自分の未来の可能性はより広がっていくと感じました。最後に、自分の将来の夢がより確実になりました。以前は国際協力のために何ができるのか、私はどんな社会の実現を目指しているのかが不明確でしたが、カンボジアに行ったことで、格差のない自由な社会が必要だと実感したし、世界をよりよくするためにもっと必死に頑張ろうと決意しました。

2 カンボジアに対する理解や印象について

カンボジアは私が想像していた以上に日本と違っていました。街中は沢山のバイクやトゥクトゥクや人で溢れ、とってもカラフルでした。また、建設中のビルや様々な形や高さの建物が集結していて発展のさなかにあることが伝わってきました。そして、カンボジアの人はみんな温かくて優しかったです。重要なのは豊かさではなく、お金では得られない精神的な充足感だと感じました。でも、少しシャイだったり礼儀を重んじるところは日本人と似ていました。最後に、何よりも自国の文化を大切にしていました。日本では現代的になっていくにつれて、日本文化から遠ざかって日本人というアイデンティティーが薄れてしまっている気がしますが、カンボジアの高校生は文化体験をするときに本当に楽しんでいて、その姿勢を私達も見習って沢山の人と日本文化の良さをもっと分かち合っていきたいと思いました。

3 PSE 生徒との交流、小学校訪問等から学んだこと

カンボジアの小学生や高校生と交流して色々な驚きがありました。まず、皆が気さくで親しみやすかったことです。いつも笑顔で、学習意欲や将来への希望に溢れていて、カンボジアの高校生と夢を語り合ったときは素敵な夢を持っていて、違う国の同世代の高校生がどんなことを思っているのかを知れて凄く励みになりました。次に、それぞれが主体性を持っていることです。PSE の学校内ではペットボトルの使用を禁止していて、成果物の発表をする時もプラスチック問題について触れていて、日本の高校生よりも自分の国に対する関心がずっと高いなと感じ、私もこれからの将来のためにもっと関心を持って生活していこうと思いました。

4 今の目標や今後の進路について

私はこのプロジェクトに参加する前から、国際公務員になりたいという夢を持っていましたが、今回参加したことでその思いがより強く、確実になりました。今の目標として、まず、志望大学で国際関係学について学び、海外でボランティアや国際貢献の経験をたくさん積んだ後、国際機関に就職して、世界の貧困や男女の格差を解決するために働きたいです。これからは、やりたいと思ったことは迷わず挑戦して、自分や目の前の現実から逃げずにコツコツと頑張りたいと思います。私は、カンボジアに行って、異なる背景や価値観を持つ世界の人が、平等に自由に生きられる社会の実現を目指して取り組んでいきたいと思います。

5 帰国後の活動

まだ具体的には決まっていませんが、この研修で学んだことを何らかの形で、高校で発表できたらいいなと思っています。また、短い期間でも海外に行って学びを得るということは、人生においてとても重要な経験だと身をもって実感したので、より多くの高校生につばさプロジェクトについて知ってもらえるように、留学イベントなどを開催して海外に留学する高校生を増やしていきたいです。

グループで成果物発表の準備をする様子

一緒に交流した
PSE の校内（食堂前）

長野高校
２年
松本（まつもと）　菜々美（ななみ）

実際に自分の目で見た貧困

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

「将来何をしたいのか」という問いに対して「世界の貧困解決に携わりたい」としか答えることができなかった高校１年生の自分を変えたいと思い留学のことを考え始めた時に、このつばさプロジェクトに出会った。自分が将来変えていきたいと考える環境は、そこで暮らす人々は、どのようなものかを現地に行き自分で見て聞いて感じるためにつばさプロジェクトに参加した。活動中は「何が貧困を引き起こし、何が貧困を解決に導くのか」という問いの答えを求めて様々な話をお聞きした。

そんな自分が帰国して２週間経った今感じるのは、「貧困とは本当に無くさなければいけないのか」ということだ。貧困による健康状態や機会の格差は、その地域に暮らす人々の将来の可能性を奪ってしまうものであり、なくすべきである。しかし、我々日本人にとっては貧困でも現地の人々にとっては“普通”であり何の不自由もなく、むしろ残すべき文化として地域に根付いているものがとても多い。そのようなものを、ひとまとめに貧困としてなくしてしまわないように、その文化の中で暮らす人々とコミュニケーションをとり話し合って支援や活動を行なっていくことが重要である。

貧困の様々な側面を知ることでこのような視点を持つことができたことが、私にとって最も大きな変化であると感じる。

2 カンボジアに対する理解や印象について

カンボジアは貧困に苦しむ国という感覚は変えていく必要があると強く感じた。特に首都のプノンペンは非常に発展しており、日本とあまり大きな差は感じないほどであった。一歩郊外に出ると経済格差がはっきりと見られたが、地方も私たちが幼い頃から学んできた貧困とは違いがあった。確かに水道の通っていない住宅も多く生活水準は高いとは言えないが、その状況に苦悩を抱えながら生活しているとも限らない。カンボジアの人々はとても明るく、おもてなしの精神を強く持っていると感じた。自分たちの国に誇りを持つ人々の素敵な国であった。

3 PSE 生徒との交流、小学校訪問等から学んだこと

純粋に“学びたい”というまっすぐな気持ちを持ち学校に通う生徒たちであった。日本は自ら学ぶよりも学ばされている学生がとても多い。先進国で教育制度が整っているが故に学びたいという意思の有無に関係なくカリキュラムに沿って大学卒業という肩書きのために学ぶ学生が多くいる。カンボジアは学校で学ぶことができる環境があたりまえではないからこそ、“学ぶ”ために学校に通う学生が多いのではないか。しかし、教育環境には多くの課題が残っている。この課題を解決した先にも、このような主体的な学びが残っていて欲しいと強く思う。

4 今の目標や今後の進路について

今は、この学ぶことができる環境で精一杯多くのことを学び、またもう一度世界を見るときに幅広い視点で物事を見ることができるようになりたいと考えている。そのために世界中の出来事に関心を持ち、大学受験に向けて勉強を進めていく。大学に進学してからのことはまだイメージが湧かず考えるのが難しいが、分野にとらわれずに様々なことに興味を持って学びたい。最終的には、地域により身近な支援や交流を可能にすために小規模の団体を組織して、大小様々な団体と協力しながらやりたいことに挑戦する機会を与えられるような活動をしていきたい。

5 帰国後の活動

このような報告書に自分が学んだことや感じたことを書き記していくことがまずは大切だと考える。また、留学に興味を持つ身近な人に相談を受けることもあったが、小さいものであるとしても身近な人に経験を伝えていきたい。そして、自分の行動ひとつが周囲にいい影響を与えることに繋がっていくように、このつばさプロジェクトで得たものを忘れずに日々を過ごしていきたい。

現地の言葉でのコミュニケーション

訪問先で学んだことの共有

長野高校
２年
赤沼（あかぬま）　優之介（ゆうのすけ）

心も、アイデアも、志も、夢も。つながっている、どこまでも。

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

参加前は、人間関係や進路などで悩まされることが多かったが、研修を終えて世界が広がり、些細な悩みはあっという間に吹き飛んだ。途上国での開発・教育を行うNGOの方の講演から、「自分のやりたいと思ったことをつねに考え続けていれば、遠回りになっても、必ず自分のやりたいと思ったことの範疇に居ることができる」という言葉を聞いたことで自身の将来に対して希望をもった見方ができるようになった。また小学生の栄養の授業に対する積極性を目にし、自身もより積極性をもって日々の学びに取り組んでいこうと感じた。さらに現地の学生との交流から、文化の違いや心のあたたかさに触れ、今まで以上に考え方の違いをより認め合うようにしていこう、より他者に対して優しさのもてる人間になろうと心を新たにすることができた。文化を異とする他者とコミュニケーションをとることの楽しさも肌で実感することができた。

2 カンボジアに対する理解や印象について

百聞は一見に如かず。急速な経済成長を遂げている首都プノンペンは高層ビルやショッピングモールなどが広がっており思った以上に栄えていると感じた。その一方でスラムや物乞いをしている子どもを見たことから、経済発展に取り残された人々もいるという現実を目の当たりにした。また農村部の小学校や家庭の訪問を通じて、都市と農村との間での生活の差も実感した。都市に比べ農村は雇用の機会が非常に少なく、農村での貧困問題や教育格差の要因となっていたり、水道や電気の利用に不安が残ったりしている現状が見てとれた。しかし、農村部の小学生の笑顔や村長の「ゆったりした暮らしが好きだ」という声を見聞きし、「金銭やモノを多く所有→幸せ」「便利→幸せ」とは必ずしもいえないのだと実感した。また、カンボジアの人々は柔和で親切な方が多いという印象を受けた。

3 PSE生徒との交流、小学校訪問等から学んだこと

学生と交流をしたとき、小学生の嬉しそうな表情やハイタッチなどを通じて、言語の壁を越えて心を通わせることができることに気付いた。また、英語やダンスなどを通してコミュニケーションがさらに活発になり、より親睦が深まった。また行事や挨拶の仕方、他者との関わり方など文化の違いにも気付かされ、価値観や生き方が違うということはかけがえのない、素晴らしいことなのだと身に染みて感じた。

現地で教育や開発の支援を行うNGOの方の講演では、現地の住民が真に持続性をもって問題解決に向かうには、現地の住民の可能性や価値観を最大限尊重し「背中を押す」という考え方が大切なのだと学んだ。また、ハーブティーの生産を行う企業の訪問から、独自のブランド力を維持することができるゆえに栽培技術の他農家への普及は競争をもたらさず、むしろ人々の生活を支え共栄できるといった発見をした。また虐殺博物館にて、虐殺に用いられた武器や独房などを目にし、紛争や虐殺の残虐性を改めて痛感した。

4 今の目標や今後の進路について

外国語を熱心に勉強し、より的確でスムーズなコミュニケーションがとれるようにしていこうと思う。さらに、今回の、互いを認め合うことのできる素敵な仲間との出会いに感謝し、仲間を大切にしていこうと思っている。大学進学後は国際政治学や国際開発学などを学び、平和構築や途上国を中心とした開発に関する知見やノウハウを得ようと思う。また海外留学をし、語学習得や新たな視座の獲得に努めていこうと思う。その後は、マクロな視点とミクロな視点を両方もち続け、社会をよりよくしていくために社会の中で自身ができることを絶えず考えながら、NGOや各国、国際機関をつなぐような立場で戦争・紛争や貧困問題の解決などに携わっていく。

5 帰国後の活動

カンボジアで得た気付きを友人などに話したり、総合的な学習の時間を用いて探究課題に関してのプレゼンテーションを行ったりすることを通じて、自身の経験やカンボジアの文化を発信していく。加えて、異文化交流活動やボランティア活動を行うサークル、社会問題についてともに考えるグループに所属して考えを受発信する中で、幅広い年代の人々にカンボジアでの学びを伝えていこうと思う。さらに自身が国際協力に携わってからも、その原体験となったカンボジアでの学びについて将来を担う学生たちに紹介していきたい。

文化が違うっておもしろい！
～現地の学生との文化交流から～

私たちの理想の世界
”No Plastic” に向けて
～現地の学生とグループで
アイデアを出し合う～

屋代高校
２年
飯島（いいじま）　由衣（ゆい）

未来に続く貴重な７日間

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私は、今回のプログラムを通して実際に現地に足を運んで体験することの大切さを改めて感じた。プログラムに参加しカンボジアに訪れる前も、本やネットを通して現地の人の言葉を聞くことや現地の風景を見ることはできたが、自分自身の五感で感じたカンボジアは比べ物にならない程リアルで、本やネットに取りあげられないような何気ない日常の風景にも驚きや発見があった。

また、今回のプログラムを通して、以前は持てなかった積極性を手に入れることができたと思う。今回様々な人の話を聞く中で誰かによって与えられる指示を待つのではなく自分の気になることや、やりたいことの実現のために手を挙げることが大切だと強く感じた。

2 カンボジアに対する理解や印象について

私は、今回のプロジェクトに参加しカンボジアに行くまで「カンボジア＝“貧困”“発展途上国”“内戦”」といったイメージを持っていた。しかし、実際にカンボジアに訪れてみると、首都のプノンペンは高層ビルが立ち並び、たくさんのバイクが行き交う活気にあふれた街だった。地方は道路舗装が全く行われていないなど未発展な部分も見られたが、Udon　house さんが支援している小学校に訪れた際は、写真のように教室が飾り付けられていて私が思っていたよりも設備が整い、そこに通う小学生たちの様子も活気にあふれていた。私が体験したカンボジアは全体的に活気と笑顔にあふれていて、これからより発展していく可能性を感じた。

3 PSE 生徒との交流、小学校訪問等から学んだこと

PSE の生徒も小学校の生徒も学ぶ意欲にあふれている印象を受けた。日本では、学校に行きたくないという人や勉強なんてしたくないという人も一定数いて、私も時に学校に行きたくないと思ったり、勉強をしなければならない義務感を嫌になってしまうことがある。しかし、PSE の子ども達は学ぶことの大切さや希少さを理解して学ぶことができる環境を大事にしていることが交流をしていく中で伝わってきた。交流をした PSE の子たちの多くは英語を流暢に話し、中にはフランス語もスペイン語も話すことができると言って話して見せてくれる子もいた。PSE の生徒との交流を通して、ただ学ぶことができる環境を享受するのではなく、その環境が当たり前でないことを理解して目標を持って学ぶことの重要さを学んだ。

4 今の目標や今後の進路について

今回初めて海外に行き、様々な人・ものを目にしたことで、以前から第一志望だった国際系の大学に進学したいという思いがより強くなった。これからは、その第一志望の大学に合格するために勉学に励むとともに、今回痛感した英語の Speaking 力の不足を改善するために学校の ALT の先生や塾の外国人の先生との会話の機会を持ち、もっと自信を持って英語を話せるようになるために努力したい。また、大学生になったら日本国内だけでなくカンボジアなどの東南アジアの国でボランティアを行うなど、“よりよい世界の実現”のために行動したい。

5 帰国後の活動

今回のプログラムで知ったカンボジアの実態やこれから解決しなければならないカンボジアの抱える社会問題、そして私達がカンボジアを見習わなければならないと感じたことについて身近なクラスメートや後輩に話し、共有したい。また、今回海外に留学したことで大きな影響を受け自分の視野を広げることができたと思うので、カンボジアに限らず留学することについての有意義さも伝えたい。

Udon house さんが支援している小学校

プノンペンの街並み

上田高校
１年
石井（いしい）　双葉（ふたば）

カンボジアと日本の関係性

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私はこのプロジェクトでたくさんの人と話したり、お話を聞いたりなど日本ではできない多くの貴重な経験をしました。参加前と参加後の自分は自分から見ても周りから見ても大きく変わったと思います。一番大きく変わったと思うのは自信がついて色々なことに意欲的になれたことです。参加前は現地の子たちとコミュニケーションがとれるかが不安でした。けれど現地の小学生やPSEの子、プロジェクトに参加した子などたくさんの人と楽しく話し、仲良くなることができました。この経験で英語を話すことに恐怖心が無くなったし、自分のやりたいことをやってみようと思うようになりました。また、海外で働きたいという思いが強くなり、目標が明確になったので、勉強にもより熱心に取り組めるようになりました。

2 カンボジアに対する理解や印象について

カンボジアは発展途上国で貧しいイメージを持っていました。けれど都市部では高層ビルや大きなスーパーマーケットがあったりとても発展していました。またそこにいる人々も公園でダンスをしたり、買い物を楽しむ姿などが見られました。一方で二日目に農村部であるカンダール州の小学校へ行く際に、バスの窓から見えた景色は全く異なるものでした。道にペットボトルなどのプラスチックゴミが散乱していたり、舗装されていない道路があったりと景色が全く違うことに驚き、経済格差を感じました。また、文化の違いを体感することも楽しかったです。例えば、市場で鶏肉がそのまま吊るされて売られていたり、魚が元気そうに泳いでいたりしました。この旅を通してカンボジアをより身近に感じられるようになりました。

3 PSE生徒との交流、小学校訪問等から学んだこと

まず、PSEの生徒の子たちとの交流では初めて海外の子とたくさんコミュニケーションをとることができて嬉しかったし楽しかったです。英語を話すとき文法や語彙などを使いこなすのはもちろん大事だし、自分は全然使いこなせてなかったと思います。けれども自分の考えや気持ちを伝えようとすることがもっと大切なんだと感じました。カンダール州の小学校を訪問させていただいたときに、私は日本がカンボジアから学ばなければならないことがあることに気付かされました。先生が生徒に質問をするとみんなが大きな声で答えていて、すごく楽しそうに授業を受けていました。私が小学校高学年の頃は先生が質問をしても発言をする生徒は少数でした。日本が「教える側」でカンボジアが「教わる側」だと勝手に思っていた私は、大きな偏見をもっていたのだと気付かされました。私はFIDRカンボジア事務所の所長である佐伯さんのお話が心に残りました。発展途上国への支援とは、食料や水を買って寄付をする、といったものではなくその国、あるいは地域がこれからも持続的に発展して、自立できるように技術を教えるであったり、環境づくりのお手伝いをするということなんだと思いました。

4 今の目標や今後の進路について

私は将来保健室の先生になって、日本の学校で経験を積んだ後に、海外の学校で働きたいと思っています。それを叶えるために、今の目標は英語をもっと勉強することと自分を取り巻く環境に感謝して生活することです。英語は今の自分の持っている語彙では全然足りないと思いました。特にスピーキングの力が足りないと感じたので英語の勉強を頑張りたいです。また、今回の旅でいつも水道水が飲めたり、学校で将来のために勉強をするなど当たり前だと思っていたことが当たり前じゃないことに気づきました。それらに感謝して生活していきたいと思います。

5 帰国後の活動

カンボジアにいるときはSNSで友達に発信するなどしていました。そのため帰国後SNSでの活動をしていきたいと考えています。また、帰国後に友達にカンボジアでの経験を話すと、信州つばさプロジェクトや海外へ行くことに興味を持ってくれました。なのでまずは友達や家族、中学の後輩など自分にとって身近な人へ私の経験を伝えられたらいいなと思っています。

小学校の子たち

イオンの中を走る汽車

上田染谷丘高校
２年
依田（よだ）　心望（ここみ）

知識と心が豊かになった成長のための１週間

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

将来どんなことをしたいか曖昧に考えていたけれど、このプロジェクトに参加して同じように世界に目を向けて将来を考えている日本のメンバーたちと話して、人それぞれの考え、将来のビジョンを聞き、日本を越えてカンボジアで現地の人々のために働いている人の姿を見て、話を聞き、自分の将来のビジョンを１つずつ、順を追って考えられるようになりました。

戦争についてより深く知り、まだ見られる戦争の影響を肌で感じ、カンボジアならではの人の温かさ、優しさに触れたことで自分も人に対してより温かく接するようになり、心が豊かになったと感じます。

2 カンボジアに対する理解や印象について

カンボジアは、小学生の時に参加した貧困に陥っている子供たちに服を届けようというプロジェクトで服が送り届けられる対象の国になっていたり、貧困について学んでいる際、何度か目にする国であったりと、貧困のイメージがついている国でした。しかし、今回のプロジェクトに参加するにあたって事前学習をしたところ、首都プノンペンが想像以上に発展していることを知り、貧困だけのイメージではなくなりました。実際に現地で活動をしてみて、首都と首都外のように地域と地域の間に貧富の差があることを知りました。また、ゴミ問題など解決しなくてはならない問題があることや戦争によって受けた影響がまだ残っていることを感じました。

たくさんの現地の人と関わり、カンボジアの人々の心の温かさを感じ、カンボジアは優しい人たちで溢れていると感じました。

3 PSE 生徒との交流、小学校訪問等から学んだこと

PSE の生徒さんとの交流で１番衝撃的だったことは英語の発音で、フランス語のような発音が混ざっていると感じ、昔フランスの植民地だったことが関係しているのかと考え、国によって英語の発音が変わってくることを学びました。

PSE の生徒さんたちの中には、私よりも年上だけれど、学校に通い始めてまだ３ヶ月目の生徒さんがいるなど、PSE に通う前にそれぞれが抱えていた問題があることを知り、カンボジアにはまだ教育の問題があることを肌で感じました。

現地の小学校には２回行かせていただき、どの教室も子供たちの明るく大きな声が響き渡っていて、子供たちの授業を受ける姿勢がとても輝いていて、UDON HOUSE の楠川富子さんのお話からもカンボジアの子供たちは学校に行けることが特別なことで学校がとても好きだということを知りました。

楠川富子さんのお話や Watthan Artisans でのお話を聞いてカンボジアには障がいを抱えた人への問題がまだ多くあることを学びました。

4 今の目標や今後の進路について

貧困地域の子供たちと関わりたいという思いが強くなり、世界各地に行き、子供たちと交流したいです。

高校生になってから世界問題を解決したいという思いの他に、まずは日本からと考えるようになったので、大学生になったら日本の貧困に陥っている子供たちや何か問題を抱えている子供たちのサポートができることを始め、日本の現状を自分の目と肌で学んでから世界の貧困を解決するために行動を起こしたいです。

また、探究活動と今回のプロジェクトで障がいをもった人との関わり方や現状を学んだので、自分に出来ることを考え、アクションを起こしたいです。

『すべての人が笑顔で幸せを感じられるようにする』という私の目標を達成できるようにこれからも学びを深め、自分自身成長し続け、たくさんの人と関わっていきたいです。

5 帰国後の活動

今回のプロジェクトで学んだ多くのことをたくさんの人に共有するために、学校でクラス、学年、全校に向けたプレゼンテーションを個人や一緒に活動した同じ学校の生徒とグループで行いたいです。

また、大学生になってからなど、これからはもっと子供たちと関わりたいと思っているので、その子供たちに私が学んだことや見聞きしたものを伝え、たくさんの子供たちにも世界の色々なことを考え、成長する機会を設けられたらいいなと思います。

みんなに出会えて幸せです !!

とっても friendly な子供たち

上田染谷丘高校
１年
宮本（みやもと）　真琴（まこと）

想像と理想と現実と経験と学びと

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

今回の活動を通して以前より人道支援や国際協力、途上国のことや「外国」というものの現実味が増し、雲の上の霧がかった存在ではなくなった気がします。その分以前抱いていたワクワク感や強い「憧れ」ではいい意味でなくなり、はっきりと今起きていることとしてもっと受け止められるようになりました。

また目的の中の一つとして将来何になりたいか何をしたいかを見つける、考えるためにこのプロジェクトに参加しましたが、今全て決めなくて良いし大学が人生すべてを決めるわけではなく、人生なんとかなるということを教えていただいたことが、私の考えが大きく変わって安心できたことです。実際に体験してきた色んな方にお話をお聞きできて考え方や物事に対するマインドが成長したと思います。

子どもたちの可愛い純粋な笑顔と現地の方々やPSEの友人たちの暖かさに触れ、道端のゴミや舗装されていない道路を見て、「私が支援の手助けをしたい。もっと笑顔に触れたい」と改めて強く思いました。しかし、一方で新しく「本当にしたいのか？」とも考えるようになりました。

今でもこの２つの考えは入り混じっていますが、それでもいいと考えています。今するべきだと思うことをして、その点を結んで本当にしたいことを見つけていこうと思います。この考えが私の中の一番の変化と成長です。

2 カンボジアに対する理解や印象について

本当に無知で今考えれば当たり前なのですが、首都はすごい都会だと思いました。画像や映像で見て、想像していたものとは全く別のものでした。例えば、都市と郊外ははっきり別れていると思っていましたが、それだけではなく、近代的な建物と昔ながらの住宅が入り混じっているところもありました。

しかし、道にあるゴミの量やトイレやマーケットなどの衛生環境、舗装されていない道路は想像していたままで、実際に見ると衝撃的なものもありました。

行ってみないとわからないもので、私はまだまだ知らないことと誤解していることが沢山あり、だからこそ色んな所に行きたいともっと思うようになりました。

途上国だから、アジアだからと考えることが、逆に差別になっているのではないかと感じました。またどんなところでも案外生きていけるとも実感しました。

3 PSE生徒との交流、小学校訪問等から学んだこと

みんな明るく、いる間優しさと愛をずっと感じていて、帰国した今でも写真を見かえしたり振り返りをすると思い出します。小学校や幼稚園の子どもたちはすごく元気で、私が小学校の時よりも何倍も何倍も楽しそうでした。しかし同時に、まだインフラが十分に整っていないことやトゥール・スレン虐殺博物館でこの世で本当に起こったこととは思えないくらい残忍なことが起こったと実際に感じ、その影響はまだ強く残っていることも知り、感じました。

PSEでの交流や企業訪問や講演は全てすごく自分に刺さり、今の心や考えに大きく影響しています。また、そのNGOやJICAの方たちの活動が色んな角度からの支援でできていること、それは私もできること、大学や年齢は関係ないことを学ぶことができました。

子どもたちの笑顔が純粋でとても素敵で、家庭訪問や通訳の方との関わりを通してたくさんの温かさももらいました。PSEの人たちも、日本の高校生となんら変わらず、話したり遊んだりすごく楽しかったです。余計、もっともっと頑張ろうと思いました。

4 今の目標や今後の進路について

自分の英語力と知識の無さを痛感し、自分の決めつけや無意識の偏見に気づきました。そのため、今の目標は日常から積極的に話し英語力を伸ばすこと、色々な活動に参加したり自ら行動を起こしたりすることで将来やりたいことをみつけ、点を増やしていくことです。

今後は大学では長期留学を絶対にします。海外の大学に進学するか、大学の制度を使って日本の大学から留学するかはまだ決めていません。何らかの形で絶対に留学し、英語とともに多言語も学びたいと考えています。そのために勉強の準備だけでなく、お金を貯めてマインドから変えていきます。

5 帰国後の活動

まずはスライドを使って学校での発表を通して友人や先生、全校生徒に伝えます。文化祭などでも展示や発表などの形で伝えていきたいと思っています。

またfacebookとinstagramでこの活動のまとめと海外や将来、国際協力に対する今の考えなどを発信して学校以外の人にも伝えていきたいと考えています。公開しているアカウントではないのですが、他校の人や先輩、私の海外の友人などより多くの人にこの活動での体験や考えを知ってもらうことができると考えました。

トゥール・スレン
虐殺博物館入口

カンダール州の小学校の
子どもたちとの集合写真

上田染谷丘高校
1年
黒沢（くろさわ）　燦（あきら）

過去に起きていたことは現在に影響を与えていた

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

このプログラムで参加したカンボジアは初めて行く場所であり、知らない言語でした。参加する前カンボジアは発展途上国だから貧困問題について調べたいと思いました。しかし、カンボジアでは貧困はもちろん、ポルポト政権の虐殺の影響で多くの知識人が殺されて現在の授業の二部制につながったり、中学、高校の卒業率が格段に下がったりと、カンボジアの教育にとても大きな影響を与えていることを知りました。JICA カンボジア事務所の方のお話や FIDR の佐伯さんのお話を通して、貧困は教育や環境、食糧問題など複雑な要因があることを再認識しました。それを踏まえて自分に必要な知識を身に付けたいと思いました。

2 カンボジアに対する理解や印象について

カンボジアは貧しい国だという理解が自分にありました。けれど実際プノンペンに着くと、ビルや大きなデパートが立っていて驚きました。JICA の支援のおかげで、日本で見慣れている信号があったり、日系企業が進出していたり、日本のメーカーのバイクがあったりと、日本のものが多くありました。その一方で、カンダール州に行くとインフラが整っていなかったり、道が凸凹していたり、都市部との格差が見られました。カンボジアではゴミを分別したり回収したりする文化がないので、ゴミが道端にたくさん落ちていたのが印象に残っています。

3 PSE 生徒との交流、小学校訪問等から学んだこと

PSE の生徒との交流で生徒たちの英語力に驚きました。日本もカンボジアも母国語が英語ではないなかでのコミュニケーションはとても難しかったのと同時に、自分の英語力も向上したと実感できました。企業訪問でもたくさん質問したり、話を真剣に聞いたり。企業訪問後の成果発表前も積極的に意見をくれて、学習意欲の違いを目の当たりにしました。日本ではあまり見られない光景で学ぶところが多くありました。カンダール州の小学校訪問では、栄養に関するクイズを身体を動かしてやったのがとても面白かったです。そのあとにあった家庭訪問で、日本と違った住宅や、家族構成を聞くことができて、より一層カンボジアに興味を持てたと思います。

4 今の目標や今後の進路について

国際公務員になるために必要不可欠になってくる語学力を高めたいと考えています。そのために日頃から英語の授業に集中したり、英語に触れる機会を増やしていき英検準１級を取得することが今の目標です。上田染谷の国際教養科では２年生になると第二外国語を授業で習うので、国際公務員に必要な第二外国語を取得し、大学で英語と一緒に学んでいけるような学習をしていきたいです。私は海外の大学に進学することを考えているので、進学前に海外と日本の異文化理解を深めたり、外国人とコミュニケーションするのに必要な語学力を上げて、SDGs に関することや外国語を学べる進学先を選んでいきたいです。

5 帰国後の活動

上田染谷丘高校では毎年５月ごろに報告会を体育館で行っています。自分はただプレゼンをするのではなく、今回のプログラムを通したストーリーテリングをしたいです。このプログラムの報告会を聞く全校のみんなの印象に残ったり発展途上国に興味・関心を持ってもらえるようにしたいでです。カンボジアが持っている課題があるように、他の国にも違った課題があり、それに直面しているということを知ってもらいこれらを解決するために世界をより良い方向に変えようとする意識を高めたいです。

カンボジアの夜景

カンボジア独立記念塔

上田染谷丘高校
１年
神谷（かみや）　朋香（ともか）

初めての体験　～カンボジアでの経験～

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

最初、行く前は不安しかありませんでした。自分は何が学べるんだろう、何ができるんだろうとずっと考えてもいました。ですがカンボジアでの交流や講演会から、帰国後自分は何をするべきなのか考えることができて、良かったです。付き添ってくださった先生やICNetの方達に個人で質問したことやアドバイスについても帰国後実施しようと思います。また、私がホテルからバスに乗るときにお金を集めている男の子を見てすごくショックを受けました。なので、将来そういう子たちを減らしたい、笑顔にしたいと考えました。その経験を将来やこれからの探究活動で活かしたいなと思いました。

2 カンボジアに対する理解や印象について

カンボジアでの第一印象としては最初に空港に出たときです。日本とはぜんぜん違う景色や空気が感じられて、驚いたのをすごく覚えています。他の印象としては、地方へ行くと一気に違う場所に来たかのように景色が違うように感じられたことです。首都から離れたところにいくと自然が多く、動物が首都よりたくさんいました。カンボジアの理解としては、ポル・ポト政権について学ぶことができました。理由としては、トゥールスレン虐殺博物館を見に行ったことといろいろな団体の方からの講演会からです。虐殺でたくさんの方が亡くなったことから今の農業や教育、貧困の問題が起きてしまっているというのがわかりました。そして講演会から、日本がカンボジアでどんな支援をしているのかについても学ぶこともできました。

3 今の目標や今後の進路について

今の目標として、留学に行く前から英語を使って人を助ける仕事をしたいなと思っていました。ですが、明確な将来の事は決まっていませんでした。カンボジアに行けば、もしかしたら、やりたいことが見つかるのではないかと考えてました。カンボジアに行ってみて色々な興味や、やってみたいなと思うことがまだたくさんあることがわかりました！なので、これから私はまず自分のしたいことをどんどん見つけていきたいです。そして高校卒業までにはやりたいことを明確に絞って、将来のことに繋げて行ければいいなと思っています！

4 帰国後の活動

最近行った活動として私は学校で、班活動やクラスの友達にカンボジアで学んだことを教えることができました。これからの活動としては留学に行こうと思っている友達や後輩に、自分の経験をもとに相談にのってあげたいです。また、私は探究活動で国際交流やボランティアについてやろうと考えています。なので、カンボジアで興味を持ったことや経験を活かしながら活動していきたいです。報告会では、自分が何を伝えたいのか考えて発表したいなと思っています。

夜の独立記念塔

カンダール州へ行く時の様子

上田染谷丘高校
２年
半田（はんだ）　凛子（りこ）

孵化　～自分の殻を破り、踏み出した未来への一歩～

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私の見ていた世界は狭かったのだと気付かされた。水道水が飲めたり、勉強できる環境が当たり前にあることは普通ではないとカンボジアに来て実感し、今までの自分は頭の中で分かった気になっていただけであることに気付いた。また、カンボジアの人々の温かさ、都市や農村の雰囲気、匂い、音。どれも調べただけでは分からないことばかりだった。実際に自分の足を運び、目で見て、触れることの大切さを学んだ。そして参加前の自分より行動力と自信がついた。参加前は消極的で何をするにもまずできない理由を考えてしまうことが多かった。しかし、初めての海外を初めて会った仲間と過ごし、様々な活動や人々との交流を主体的に行うことができ行動力と自信をつけることができた。このプロジェクトで経験したこと全てが貴重で、新鮮だった。空港を出たあの瞬間、街の空気を肌で感じたあの時、様々な場面で感じた緊張と期待の気持ちを忘れず大切にしたい。

2 カンボジアに対する理解や印象について

カンボジアは農村が多く、都市でもインフラが整備されていない全体的に貧困な国だと思い込んでいたが、そのイメージが大きく変わった。プノンペンは高層ビルやショッピングモールが立ち並び、インフラも整備されていてとても発展していた。一方で、農村部は衛生的とは言えない市場が開かれ、昔ながらの家もあり、都市部と農村部の格差があるという印象を持った。

プノンペンでは日本企業のバイクや車が多く走り、日本が支援した信号機が使われていたり、現地通貨に日本の国旗と支援で建てられた橋が描かれていたりと、日本とつながりの深い国だと感じた。また、空港で入国する時何をすればいいか分からずあたふたしている私に、職員の方が笑顔とジェスチャーを交えながら教えてくれたことが印象に残っている。レストランや小学校でも笑顔で迎えてくれて、カンボジアの人々の優しさや明るさにふれて心が温かくなった。

3 PSE 生徒との交流、小学校訪問等から学んだこと

言語や文化が異なる人々とコミュニケーションをとる楽しさと、難しさを学んだ。PSE の生徒と交流する中で英語が聞き取れ、通じたときは本当に嬉しかった。彼らはよく私の名前を呼んでくれたり、分からないことは丁寧に教えてくれたりした。彼らの優しさを感じると同時に人と関わる嬉しさも改めて実感した。一方で思い通り英語を話せず、聞き取れなかったことも多く、英語力の低さを痛感し悔しさも感じた。また小学校では子どもたちが輝いた目で授業を受け、先生の呼びかけに明るく返事をしていたのが印象的だった。PSE の生徒や小学校の子ども達は皆自分らしさを持ち、活き活きとしている姿を見て私も勇気づけられ、自分らしくあろうと思うようになった。

CMAC でカンボジアにはまだ多くの地雷や不発弾が残っていることを学び、実際に地雷被害の写真や実物を見て、戦争や紛争は終わったけれどその影響はまだ続いていることを実感した。

4 今の目標や今後の進路について

PSE の生徒との交流を通して自分の英語力の低さを実感しとても悔しかったので、まずは英語の勉強により力を入れたい。カンボジアを実際に訪れ、自分の目や足を使って様々なことを経験したことで心が大きく動き、学びが身につき、理解が深まった。そのため気になることがあれば、それについて調べるだけでなく行動を起こしたいと思った。また、このプロジェクトで海外に対する興味や困っている人を支えたい、笑顔にしたいという思いがより一層強くなった。将来は工学系の道に進み、英語が話せるという基盤のもと、工学系の専門的な技術や知識を使ってアフリカ州や東南アジアで仕事に就き、発展途上国の人々の力になりたいと考えている。

5 帰国後の活動

自分の身近なところからだんだん範囲を広げ、より多くの人に伝えていきたいと考えている。まずはクラスや班活動の友達などへ、発表できる場を設けていただければ、クラスや全校へこのプロジェクトでの経験や感じたことを、スライドなどを使って伝えたい。他にも地域のコミュニティーや SNS を通しても学んだことを広げ外国について少しでも興味を持ってもらえるよう活動していきたい。

カンダール州の市場

プノンペンの夜景

小諸高校
3年
中村（なかむら）　碧彩（あおい）

価値観・経験が塗り替えられた瞬間

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

参加前の私は、英語を使って話すことはもちろん自分の意見を言うこと、発言することをとても苦手としていました。大学では外国語学科に進学することを選択したため、そんな自分に自信が持てませんでした。しかし、カンボジアで「自分の意見・気持ちを言葉にしないと伝わらない」状況において、英語力がとても伸び、自信を持ってコミュニケーションを取れるようになったと感じています。そして、日本で暮らしていては考えられないような環境を肌で感じたことで、SDGs の理解を始め発展途上国との差を実感し、国際問題に対する視野を広くもてるようになりました。留学をすること、国際的な職業に就くビジョンを明確に考えられるようになりました。

2 カンボジアに対する理解や印象について

カンボジアについての事前学習ではイオンなど、多数の日本企業も進出していることを知りました。プノンペンの街中をバスで走行しているとき、高い建物も多くあり、車とバイクの光が煌びやかで想像していたより栄えているという印象をうけました。

しかし、同じプノンペンでも貧困に喘ぎ、線路の上で生活する人々がいる場所があったり、ゴミの山があると聞いて、その格差は拡大する一方だということを理解しました。また、それを防ぐため JICA などの様々な団体がカンボジアを支援しているということを学びました。トゥールスレン虐殺博物館ではカンボジアの重要な歴史の一つであるポル・ポト政権について実物の部屋、写真や絵を観察しあまりに残虐な歴史に言葉を失いました。そして二度とこのような悲劇がおきないように教育をおこなっていることを学び、日本では考えられないことなので、深く心に残りました。

3 PSE 生徒との交流、小学校訪問等から学んだこと

小学校ではまず子供たちの笑顔に圧倒されました。沢山の生徒が臆すことなく話しかけてくれたのがとても可愛く、元気をもらえました。PSE の生徒と交流した際は、英語が上手く聞き取れず苦戦するときもありましたが、質問を受けたりするうちに意思疎通ができるようになり、英語でコミュニケーションがとれることの喜びを実感しました。まず、自分の意見を伝えようとする努力がとても大切だと感じました。国も言語も違ってもこんなに仲良くなれるという経験ができて良かったです。

企業訪問では、国際協力について身近に感じることができ、将来は国際的な仕事がしたいとより強く思うことができました。

私はカンボジアが紛争から立ち直り、どのようにして文化を再建してきたのかという問題が特に気になっていたので、主にカンボジアの教育や伝統を引き継ぐ支援をしている SVA の手束さんのお話がとても勉強になりました。絵本や紙芝居を出版し、移動図書館を開始して子供たちに本に触れるきっかけを作ったというお話は、カンボジアの教育の第一歩だと思いました。

4 今の目標や今後の進路について

つばさプロジェクトで現地の方々からはもちろん、一緒に活動した高校生のみなさんからも沢山の刺激を受け、これからの大学生活がとても楽しみになりました。今の目標は、大学でさらに英語力を伸ばし留学をすることです。違う国で生活するということは今までの価値観が変わり、視野が広がると感じました。つばさプロジェクトでの経験が次の留学で活かせることが楽しみです。大学では基礎的な英語の学習を通して自分の学びたいことを見つけ、留学に向けて自信をつけたいと考えています。

そして将来的な進路としては、世界で通用するような専門的知識を身につけ国際的な職業につきたいです。

5 帰国後の活動

留学に興味をもっている人に対して、一歩を踏み出すきっかけになるような活動をしたいです。そのため、まずこの留学で活動したことや、私が得たことなどを具体的にまとめ、報告会で発表します。その後も、他の参加者の意見を参考にしながら協力して様々な人に知ってもらえるよう SNS で発信したいと考えています。

そして、大学でカンボジアでの経験を発信し、留学経験がある方とも交流をして情報交換をします。

沢山パワーをくれた現地の小学校

プノンペンの街並み